



## 一貫コース通信

### 日常に求められる当たり前…考

暦の上では立夏を迎え、いつの間に5月の4週目に入ってしまった。日曜日に、ふと思いつき久しぶりに吾妻山を麓からなぞる様に上がって来た。とは言え、浄土平まではバイクで行き、ほんのちょっと汗ばむ程度の散策をしたと言った方が適切かも知れない。想定はしていたが、高度を稼ぐにつれ景色も季節を遡り、標高1500メートル付近から萌黄色のトーンが増して行く。いつもなら、市街の色合いから季節の移ろいを感じるのが『当たり前』なのだが、コロナウイルス感染拡大で、3月からは日常の時計がほぼ止まったままだった。この間、これからの対応に思考を巡らして来たが、やっと秒針が動きを取り戻した感じがする。

私達は何故学ばなければならないのか。また、今、学んでいる事は何なのだろうか…？

暫くの間、限られたエリアでの生活を余儀なくされて来たが、遍くコロナ関連の情報は得てきたと思っている。中でも新聞各紙や巷の月間雑誌の特集記事は、煎じ詰めると、人類に対する問題提起の論調なのだ。勿論、罹患者の実数や、国内の地域状況、世界各国の状況等は大切な情報だが、それに止まらない、世界各国、各界の有識者の見解に特に興味を覚えた次第である。共通して感じる事は、コロナ問題を現在に限定して捉えていない事である。自然史や人類史の中で位置づけ、自然の営みの、どこに原因と思(おぼ)しきプロブレムがあって、今日、人類の問題に至ったのかと言う視点である。つまり、私達はただ毎日…日常生活を営んでいるが、見方に因ってはこう言う歴史の一コマを過ごしていると言えなくもなく、こんな事にも気づかされた。思うに、身に迫った毎日の情報に翻弄(ましてや、命の危険が伴えば尚更だ…)される事は否定しない。しかし、自分自身で事態を冷静に受け止め、今やれる事は何かを考え、判断し、行動に移せるかが最も大切だと思うのである。特に若い時に、多くの時間を掛けて、深く学ぶ経験をしなければこの感覚(『当たり前』)は身に着かない。

話題は逸れるが、私の中学から高校、また大学時代は随分と貧しかった。理由は、日本経済が、そのレベルだったのだろう。だから私は、現在の日本が『当たり前』だと思わない理由で、それは本当に良かったと思っている。とは言え、当時の日本より貧困に喘いでいる国は数多在中、現在の生活水準は、正直、“贅”につきる。日本は生活の保障をはじめ、安全安心も担保される社会を構築して来た。常に一定の基準(衛生面ではコンビニの🗑の、賞味期限等)が示され、ヒトとしての本来の力量(思考・判断・実践等)を試しえない社会になっている。これが悪い訳ではない。しかし、賞味期限≠消費期限の様に、本質的な自己責任の範囲を越えてまで、受動的に守って貰える訳ではないだろう。元々、安全・安心は自分で担保するのが基本であり、そこには、しばしば自己判断ならぬ自己責任が伴う。良い悪いは別として、半世紀前の不便さは、自己責任の広さでもあり、リスクも多いが作る楽しみが大きかった。勿論、勉強・大学進学は自己責任の範疇に属し、自分でやるしかないと言うのが『当たり前』だったのだ。

